

1st day
AM

第1会場●4F 視聴覚室

■司 会/岩井 浩治 山口県平生町教育委員会社会教育課 社会教育係 主事
北村 秀徳 鳥取県教育委員会事務局生涯学習課 社会教育係長

1 楽しく走ろう ふくおか子ども駅伝大会 inやまだ 10:45~11:10

穂坂 隆義 (福岡県山田市) 楽しく走ろう ふくおか子ども駅伝大会 inやまだ実行委員会 委員

13年の歴史を持つ。筑豊地区内の4回の大会を含めると17年になる。小学校を会場とした大会が2年前からサルビアパークを活用した市街地レースになった。運営は実行委員会方式で、ライオンズクラブから商工会議所青年部まで様々な団体・機関から多様な人々が参加している。同時開催のふれあい広場は小さな祭。屋台からバザー、ゲームまで沢山のお店が並ぶ。参加料は1チーム4,200円。平成14年度は196チームが参加している。

2 コミュニティの活性化イベントの企画と発信 11:10~11:35

—ギネスに挑戦する米どころ真砂地区の“世界一の押し寿司”—

齋藤 浩文 (島根県益田市) 真砂の未来をつくる会 広報部長・真砂中学校PTA 会長

地区の学校の廃校危機をきっかけに地域活性化の運動が具体化し、PTAと若者を中心に地区イベントを創出する事となった。やるのであれば、地域が一体となって世界に発信するという目標を掲げてギネスに挑戦する事がきまった。真砂地区は米どころであることに注目し、地元産の材料を活用した世界一の押し寿司づくりに取り組んでいる。

3 “協働”を通して、自立した市民がつくる“佐賀のまち” 11:35~12:00

—NPO法人さが市民活動サポートセンターがめざす市民活動・ボランティア活動の舞台づくり—

松尾由紀子 (佐賀県佐賀市) NPO法人さが市民活動サポートセンター 理事・事務局長

NPO法人の設立は2001年。2002年4月から佐賀市市民活動センターの委託を受け市民活動のサポートを開始した。目的は市民自身によるまちづくりの支援である。活動の範囲は佐賀市及び周辺市町村に及んでいる。支援活動の原理は行政と市民活動団体を繋ぎ、NPO法人とその利用者及びボランティアを繋ぐ「協働」である。

4 総括討論

12:00~12:30

第2会場●4F 大研修室

Lifelong Learning

■司 会／上田 展弘 山口県楠町教育委員会生涯学習課 生涯学習係長
藤沢 裕美 アジア環境創造フォーラム 代表

1 のいち読書のまちづくり運動 10:45～11:10

ー子ども図書館活動クラブの創設と展望ー

小松 節子（高知県野市町） のいち子ども図書館活動クラブ 会長

子ども達に本の世界を紹介するためにクラブでは読み聞かせの活動を図書館の中から、野外に移してみた。野外で行なうイベントの中に紙芝居の舞台を設置したのである。子どもの参加者の拡大が図れたと同時に子ども達の本に対する興味も増し、関わったクラブ員のやりがいにも繋がったという成果を生み出した。

2 「遊・夢・友」を育むアンビシャス広場 11:10～11:35

ーボランティアと子どもが創る地域教育カー

四ヶ所啓二（福岡県大刀洗町） 大堰アンビシャス広場「遊・夢・友」委員会 委員長

アンビシャス運動は福岡県の青少年育成事業の総称である。「アンビシャス広場」は学校週5日制を契機に異年齢の子ども居場所づくりと交流を目指した住民の活動拠点である。現在、「アンビシャス広場委員会」の協議システムを立ち上げ、ボランティアの3団体が中心的に活動している。実践の過程で子ども達による自主運営も可能になり、子どもの活動を通して大人の関わり・交流も拡大している。

3 日本一小さな町の民族芸能を活かしたまちづくりへの挑戦 11:35～12:00

森田 豊（長崎県高島町） 高島鼓響塾 塾長

平成8年から活動を開始し、町の活性化を目的とした。高島鼓響塾は町に伝わる伝統芸能を基に役場の職員が創設した民俗芸能の上演、指導グループである。塾生は現在20名、長崎県内で各種イベントに参加するなど、指導、公演を行なっている。普及・伝承を目的に小・中学校とも連携し、学社融合事業を展開し、高島町からの発信を期待している。

4 総括討論 12:00～12:30

1st day
AM

第3会場●2F 第4研修室

■司 会／石原 玉絵 福岡県教育庁福岡教育事務所生涯学習課 社会教育主事
佐々木 直 島根県立西部生涯学習推進センター 社会教育主事

1 「子ほめ条例」の制定と「子ほめの里」づくり

10:45～11:10

－子どもを見守る視点の拡大と地域一体の健全育成－

平岡 敏彦（大分県前津江村） 前津江村社会教育課 課長

平成12年、日本社会を騒がした数々の青少年犯罪を視野に入れた「子ほめ条例」が制定された。子どもの長所・特性を発見して、積極的な評価を与え、子ども達の自信や誇りを培う事を目標としている。地域の大人たちは、評価の視点を十分に理解して、子ども達をよく見守る事が前提である。表彰項目（視点）は、「奉仕賞」、「健康賞」、「親切賞」、「学芸賞」、「体育賞」、「努力賞」、「創造賞」、「勤労賞」、「読書賞」、「友情賞」、「明朗賞」である。小中学校の表彰は全員に行き渡る。

2 広域市町村における異業種・異年齢サークルによる沖縄文化伝承の試み

11:10～11:35

－「うちなーぐちサークル かじまやー仲間(しんか)」－

大谷 高子（沖縄県糸満市） 沖縄県生涯学習コーディネーター

沖縄県広域学習サービス事業「うちなーぐち講座」の受講後、修了生の要望が高まって交流・学習のためのサークルを結成する事となった。会員は異業種、異年齢で広域の9市町村から集まっている。主たる活動内容は、学習を通して沖縄文化を自ら楽しむと共に、次の世代に伝えて行く事である。具体的成果としては沖縄方言普及協議会の教本「はじみらな うちなーぐち」の教材用テープの録音に協力し、合わせて2002年11月には沖縄芝居の上演に漕ぎ着けた事である。

3 「集落民会議」の提唱と相互支援プログラムの創設

11:35～12:00

－「柳谷高校生クラブ」を中核とした総合的地域活動－

豊重 哲郎（鹿児島県串良町） 柳谷自治公民館 館長

柳谷地区は、「土着菌センター」によって、生ゴミの排出をゼロとし、堆肥を活用した自然農業でも知られているが、平成11年の中学生の暴力事件の反省を契機として青少年育成のための集落民会議を結成した。活動の核として柳谷公民館を拠点として高校生クラブを創設した。「からいも生産活動」の収益金を活用して、自治公民館に「寺子屋」を開設し、学力の低下防止に努めている。活動は地域ぐるみの「こえかけ運動」から、高齢者の「孤独死」の防止にまで広がり、高校生が有線放送を活用して、他郷で暮らす子ども達のメッセージなどを「母の日」、「父の日」、「敬老の日」などに朗読放送し、地域住民に感謝されている。

4 総括討論

12:00～12:30

第4会場●2F 自由研修室

Lifelong Learning

■司 会／林 秀行 熊本県教育庁社会教育課 社会教育主事
久保ひろみ 福岡県教育庁京築教育事務所生涯学習課 主任社会教育主事

1 「ふるさとえびの塾」塾生を母体としたグリーンツーリズム運動 10:45～11:10

稲泉 元司（宮崎県えびの市） ふるさとえびの塾 塾生

2000～2002年「ふるさとえびの塾」で地域おこしを学んだ28名の塾生がまちづくりの挑戦を開始した。具体的なテーマは、「地域資源を再発見する」、「特産物の直売・流通を工夫する」、「宿泊と食を契機とした交流を創造する」の3点である。経済の専門家も招いて月1回の学習会を実施し、合わせて「グリーンツーリズム」の試行を始めたところである。

2 高齢者学習事業「茶山塾」と浦添小学校の連携 11:10～11:35

－高齢地域の学社連携とまちづくり－

大濱 勝彦（沖縄県浦添市） 浦添市茶山自治会 会長

目標は「この地に住んでよかったまちづくり」を展開することである。活動の中心は茶山自治会が創設した「茶山塾」である。塾の活動は主として、高齢者を対象とするが、学習の中身と方法は地域社会の形成に視点をおき、高齢者の生き甲斐と自立を目指すと共に、小学校とも連携を深めて青少年の健全育成にも繋げている。「ホテルを飛ばそうまちづくり」の事業はそうした中から生まれたものである。

3 広島県立生涯学習センターの新しい試み 11:35～12:00

－ボランティアとの協働と活動支援－

葉名 雅之（広島県広島市） 広島県立生涯学習センター 主任専門員

広島県立生涯学習センターが市民との協働を目指して始めた新しいボランティア支援の試みである。支援のシステムとして「体験活動ボランティア活動支援センター」を立ち上げた。目的は体験活動としてのボランティア活動を支援し、青年の地域貢献活動の促進とネットワークの形成である。具体的には、青年の地域貢献活動の実態調査、活動奨励のキャンペーンを行なった。青年企画ボランティアによる実践交流会も開催した。

4 総括討論 12:00～12:30

1st day
PM

第1会場●4F 視聴覚室

■司 会／岩永陽之介 長崎県野母崎町教育委員会 社会教育課長
葉名 雅之 広島県立生涯学習センター 主任専門員

1 チルコムAから“チルネット(こどもネットワーク)”活動へ 13:30～13:55

—子どものためのボランティア養成と大人ネットワークの形成—

ト蔵 久子(鳥取県米子市) チルネット(こどもネットワーク) 代表

チルコムA20年の経験を踏まえ、冒険遊び、外遊び、みなとやまプレーパークづくり(行政と連携)、子どものためのボランティア養成講座など子どものための豊かな活動舞台を創造する。方法論上の基本は大人が楽しむ仕掛けづくり。活動の視点は「ものより、思い出」、関わる大人は「自分も楽しむ」である。継続的な活動と交流のネットワークの形成が目標である。

2 小さな芸術家になろう 13:55～14:20

—大学生と子どもたちが創る美術館ワークショップ—

緒方 泉(福岡県福岡市) 九州産業大学美術館学芸室 室長

大学の芸術学部が有する「ひと、もの、こと」の教育資源を活用した子ども向けの美術館ワークショップである。大学生、大学院生が自分達が学んだ成果を社会的に還元する事を目的に始められたプログラムである。具体的な目的は子どもの造型表現活動を高め、小さな芸術家を育てたいとしているが、合わせて大学美術館を地域に開放して行く機能も同時に追求している。プログラムでは、「しっくい絵画の製作」、「Tシャツづくり」、「紙粘土による造型」などをおこなってきた。

ティータイム 14:20～14:55

3 「里山学校」構想と山村交流の実験 14:55～15:20

—廃校(「庄内ゆうゆう館」)を活用したボランティア、NPO、生涯学習行政の協働—

後藤 哲三(大分県庄内町) 庄内町教育委員会生涯学習課 課長

「しょうない里山学校」は豊かな庄内の自然を生かした環境にやさしい地域づくりとそれを支える人づくりをすすめるプログラムである。庄内町とNPO「緑の工房ななぐらす」の共同事業である。目標は「面白く」、「分かりやすく」、「ためになる」交流・体験活動の創造である。期待される効果は、「物心両面における都市と農村の交流」、「地元の人材活用と地域の活性化」、「参加者に届く環境教育」である。最終的には「住んでみたくなる」町を目指している。

4 生ごみを宝に—NPO伊万里はちがめプラン 15:20～15:45

—市民による資源循環型社会作りへの挑戦—

福田 俊明(佐賀県伊万里市) 伊万里はちがめプラン 代表

NPO伊万里はちがめプランは飲食店の残飯処理の工夫から誕生した。平成6年以來の研究で、生ゴミを分解する微生物が発明され、平成11年には生ゴミの堆肥化プラントが完成した。今では飲食店及び食品関連事業所約60軒、一般家庭約100世帯から日量約1.6トンの生ゴミを堆肥に転換している。堆肥は佐賀大学農学部や農家が栽培実験を実施している。また希望者(農家)には販売もし、野菜や米など直売店で人気となり資源のリサイクルシステムが完成したのである。本プランを支援する「クリーンの環」という協力者の団体も設立され、リサイクル構想はさらに進んで栽培加工の過程を含んだ「菜の花エコプロジェクト」にまで発展している。

5 総括討論 15:45～16:15

■司 会／後田 逸馬 鹿児島国際大学 非常勤講師
設楽 聡 熊本県水俣市教育委員会生涯学習課 社会教育主事

1 青小唐津まで歩くんジャー

13:30～13:55

－3泊4日、83キロ：「生きる力」への挑戦－

光延 正次郎（福岡県古賀市） 古賀市立青柳小学校 教諭

初めは下関までの100キロを6年生が歩いた。その成果を継承して、2年目は唐津城を目指した。古賀市にはかつての唐津街道の宿場があったという縁を生かしたのである。参加児童は6年生78人。宿泊は行程の途中にある三つの小学校の体育館である。夕食は自分達で準備し、寝袋に入って眠る。計画から実行まで基本は子ども達がやる。子どもの成長に体験の質と量が問われる事は疑いない。

2 自然はぼくらの保育園

13:55～14:20

－自然の力でこそ育つ “かしこさと生きる力”－

池田 真弓（佐賀県基山町） ころころ保育園 園長

教育方針も、教育方法も徹底した外遊びと自然体験である。保育園の園庭は子ども達の掘った穴だらけ。年長組もいわゆる勉強はしない。文字どおり、教室も自然、教材も自然である。卒園式では個々の子どもができるようになった事を披露する。跳び箱や逆上がりも出て来る。「生きる力」は自然の中で体力を付ける過程で培う教育である。

ティータイム

14:20～14:55

3 目標は “タフな子ども”

14:55～15:20

－地域と共に歩む学校の創造－

松田裕見子（長崎県勝本町） 勝本町立霞翠小学校 教諭

「タフな子ども」は長崎県生涯学習行政のモデル事業の目標スローガンである。霞翠小学校では、指導にあたって、「タフな子ども」とは、「体力」、「忍耐力」、「学力」、「道徳実践力」、「表現力」、「コミュニケーション力」を身に付けた子どもであると想定している。モデル事業の指定を受けた事を契機に、保護者、地域住民の協力を得て、学校支援ボランティアを導入し、教育の内容・方法共に既成の学校概念に捉われない新しいタイプの学校づくりに着手している。

4 6年生子どもエージェントからの提唱・アクション “きよらの里づくり” 15:20～15:45

－「ツアーガイド」から「子どもヘルパー」まで－

中山 和臣（熊本県南小国町） 前南小国町立市原小学校 教諭（現熊本市立託麻東小学校 教諭）

6年生を中心に子どもができるまちづくりの参画事業を発想し、地域の人々の協力を得て、子どもツアーガイド事業「きよらの里ツアー」を創設した。また、子どもができる範囲で子どもホームヘルパー「ティータイム」も実行した。地域コミュニティの活性化に学校は何ができるか、子どもは何ができるかを問うと同時に郷土愛の育成、地域コミュニティの再生、地域教育力の向上を目指している。

5 総括討論

15:45～16:15

PM



第3会場●2F 第4研修室

司 会/寺師 孝則 鹿児島県立青少年研修センター 研修主事
山首 尚子 高知県土佐町社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター

1 寸劇「豊津家の夕餉」 13:30~13:55

男女共同参画の见えない壁—しきたりと伝統の再点検

長野 宏子ほか(福岡県豊津町) 豊津町男女共同参画まちづくり懇話会 会長

寸劇は「豊津町男女共同参画まちづくり懇話会」の啓発事業の一環として公演されたものである。これまでに、平成14年度の成人式、役場職員の研修会などにも出演している。演出、キャスト、ナレーション、舞台装置など上演の役割はすべて懇話会委員と事務局の人権対策室で分担している。「豊津家の夕餉」の家族の会話を通して男女共同参画の见えない「障壁」となっている「伝統」や「しきたり」の再点検を訴えている。

2 豊後高田「学びの21世紀塾」 13:55~14:20

—教育のまちづくりを目指して—

岩田 隆宏・近藤 浩二(大分県豊後高田市) 豊後高田市「学びの21世紀塾」実行委員会事務局
わくわく体験活動事業担当者

「学びの21世紀塾」は市を挙げての教育のまちづくりの一環である。活動は学校週5日制を契機に、学力、体験、特技など子どもの様々な能力の向上を目的としている。活動および指導は地域の「達人」、ボランティアを中心に、公民館、健康交流センターなどで行なわれている。地域の子どもは地域で育てるという意識は醸成されたが、今後は、協力者、ボランティアの確保と土曜日に勤務する職員の体制を整える事が課題である。

ティータイム 14:20~14:55

3 手作り生涯学習講座「たぶせ雑学大学」 14:55~15:20

—参画と自主運営の現代的意義—

三瓶 晴美(山口県田布施町) たぶせ雑学大学 企画運営委員

「雑学大学」は自主講座であり、企画、運営は受講生自身の手で行なう。「雑学」の学習内容は文字どおり、歴史、教育、科学、医学、芸術、文学など広範囲に及ぶ。当然、車社会の成人の学習は自治体の境界線を越えて広く近隣の市町村からの参加者も歓迎する。年8回、年会費先払い制で、今年で7年目に入る。

4 地域における「夏休みの教育力」 15:20~15:45

—児童教育ボランティア「竹の子の里」の子育て支援—

岩田 澄子(佐賀県太良町) 太良町福祉協議会事務局 事務局長

少子化の時代に、それぞれの家族への応援を目的として、夏季休業中の子育て支援と教育力向上のための学社連携事業である。会場は学校の空き教室と町内の施設を活用している。平成14年度からは中央公民館も参画。主力は中・高生を含む町内のボランティアであるが、アルバイトの大学生や保母さんのような専門家も参加している。参加費用は2,000円、昼食は手づくり弁当である。事業の中身は勉強はもちろん、体験と交流の場を提供し、「生きる力」を育てる事である。

5 総括討論 15:45~16:15

■司 会／河野 明宏 大分県教育庁生涯学習課 生涯学習推進係長
比嘉 清美 沖縄県西原町 社会教育委員

1 地域おこし学習ボランティアの10年 13:30～13:55

－市民の社会参画と生涯学習成果の社会還元－

安井 敬子（山口県宇部市） 宇部市ふるさとコンパニオンの会 会長

宇部市の人材養成講座を出発点として生涯学習ボランティア「宇部市ふるさとコンパニオンの会」を結成した。以来10年、男女共同参画を基本理念として、「生涯学習まちづくり、ふるさと講師になろう」を合い言葉に活動して来た。現在、会員28名である。主たる活動内容は小学校の総合的学習の支援、成人学級の講師、「市民文化パス」のツアーガイド、観光ボランティアガイドなどである。

2 高齢者の社会参加と世代間交流舞台の創造 13:55～14:20

－「子どもに学ぶパソコン教室」から「夏休み宿題サポート活動」まで－

森 一郎（福岡県直方市） 直鞍地区高齢者大学 コーディネーター

高齢者の活力は「生き甲斐」と日々の活動によって支えられる。高齢者の生涯学習をコーディネートする目標は高齢者の活動舞台を創造して、社会参加の実感と役割達成感が得られるプログラムを準備することである。「子どもに学ぶパソコン教室」は世代間交流と時代の最先端技術の学習の同時進行であり、同様に「宿題サポート活動」は世代間交流と役割達成による社会的承認を得る事を目指した活動である。

ティータイム 14:20～14:55

3 「多根尋常小学校：メダカの学級の挑戦」 14:55～15:20

－公立小学校による高齢者教育とコミュニティ活性化の試み－

石飛 安弘（島根県掛谷町） 多根尋常小学校 教頭

多根小学校は、「学校は地域の核であり、コミュニティづくりの場、住民の学習の場」という発想から、児童の学習と同時帯に、空き教室を活用した、主として高齢者のための「メダカの学級」を開設した。基本的に学校の地域貢献事業であり、組織も支援団体も存在しない。講師はすべて公立小学校の教職員である。パソコン教室や総合学習、また合同給食を通じた児童との交流も企画され、高齢者の活力源となっている。

4 住民の、住民による、住民のためのふるさとづくり 15:20～15:45

－自治公民館の生涯学習・地域活動への挑戦－

井塚 照雄（鳥取県会見町） 金田公民館 館長

平成6年、町の「モデル部落公民館指定事業」が出発点である。以来、「金田公民館運営要綱」を定め、館長、主事、運営委員の選出を行ない、住民主体の学習活動を進めて来た。学習課題は、郷土史、生活課題、環境保全などである。学習の過程から「ホテルの里づくり運動」が生まれ、町指定文化財「小松城跡」を活用した「小松城祭」を開催するようになり、町外からの来訪者も増えて交流の機会も拡大した。地域課題の掘り起こし学習が地域活力の向上に繋がったと評価を得ている。

5 総括討論 15:45～16:15